

台湾産食糞コガネムシ解説〔3〕

益本仁雄

A Revision of the Coprophagid-beetles from Formosa [3]

By Kimio MASUMOTO

(Received Sept. 9, 1976; Accepted Oct. 7, 1976)

はじめに本解説〔2〕に掲載の *Onthophagus* の近似種3種 (*O. kentingensis*, *O. egurianus*, *O. mushensis*) の比較表を掲げる。(表1)

表1 *O. kentingensis*, *O. egurianus*, *O. mushensis* の比較表

<i>O. kentingensis</i> NOM.	<i>O. egurianus</i> MATS.	<i>O. mushensis</i> MATS.
黒～黒褐色, 上翅はいくぶん淡色。前胸背基部, 両側, 上翅第2, 3間室の基部, 端部等は黄褐色。体表は光沢があるが上翅はやや鈍い。	♂黒色, からかね色を帯びる。前胸背両側は赤褐色。上翅の1, 3, 5間室の基部と先端は赤褐色の点紋。	(<i>O. egurianus</i> に近いが, 相違としては:) 触角は暗黒褐色 (<i>O. egurianus</i> では赤錆色), 頭楯は先端が褐色がかかる。
頭部は幅広く, 頭楯は♂で粗く密に点刻され鈍く尖り前方は強く反る。♀はシワ状でまるまり, わずかに反る。前頭は♀では前後2隆起, ♂ではこれを欠き両眼間に2突起。	頭部は長く, 頭楯は前縁が強く反りややとがる。多くの大小の点刻を有す。後方部に彎曲した横隆起が痕跡的にある。頬は点刻が少ない。頭頂は頭楯より点刻少なく, 両側には円錐形の角状突起がある。	頭部は頭楯はあまり反らない。点刻はより小さく, より疎で, 後方には横隆起の痕跡はない。頭頂の後縁は低い横隆起があり, その両端はコブ状に高まる。
前胸背は粗に点刻され, 基部中央が弱く縦に圧せられ, ♂では前方に傾斜, 中央が縦にえぐられ, 傾斜の頂点には2個の隆起となる。♀は前方に低まり平滑。基縁は中央で鈍く角ばり, 細くふちどられる。側縁は前方にまるまり, 後方はよわく彎入。前角はやや角ばる。	前胸背は粗く点刻され, 横にねた毛を装う。後方と側縁は点刻が疎で, 肩角部は鋭い。前縁は中央部で極めて深い縦溝を有し, 滑らかで光沢がある。両側は瘤状に高まる。中央部は前方のくぼみから後縁に狭い縦溝を有す。	前胸背の前縁はより短い縦溝を有し両側の高まりはより短かくコブ状。肩角部はより幅広く, 前胸背板面はより平らで, 縦溝を認めない。
上翅は結節状の条溝を有し, 条溝の点刻は直径の2～3倍の間隔, きわめてわずかに間室を侵す。間室はほぼ平坦。皮革状の微小点刻を有す。	上翅は条溝を有し, 間室は明らかに高まり, 3条の点刻列を有し, 各々は横にねた毛を装う。	上翅は間室が高まらず, 顆粒状の点刻は明らかにより小さい。
尾節板は弱く突出, 粗くやや密に点刻され, 毛を有す。	尾節板は粗く疎に点刻され, 基部に退化した縦隆起を有す。前脛節外歯は先端が鈍い。	尾節板の基部は縦隆起の痕跡がある。前脛節外歯は一層短い。
体長: ♂ 5.6～6.7mm, ♀ 5.8～6.2mm	体長: 6mm (<i>O. atripennis</i> . にやや似るが上翅に赤褐色紋あり)	体長: 5mm

10) Subgenus *Onthophagus* LATR., 1802

本亜属は特長点が少なく, 反面含まれる種は極めて多く識別がむずかしい。また, 記載内容が曖昧なものはすべてこの亜属に含まれる欠点をもつ。従ってこの亜属には他に移すべき種が混っていることが十分考えられ

る。台湾から30種ほど知られる。

O. (s. str.) anguicorius BOU. (脚注1)

コウセンエンマコガネ (= *O. midorianus* MATS.)
体長5.5～7mm。黒色で上半部は緑色光沢を有す。

前胸背表面は小判型の顆粒を有し、中央前方に瘤状隆起を具える。腐肉に來集していた。

採集記録：墾丁(7~8月), 大埔林, 甲仙埔(三輪); *O. midorianus* として埔里(5月), 恒春(6月)(松村)

O. (s. str.) kuantunensis BAL.

クワトンエンマコガネ* (脚注2)

野村(1973)が台湾から初記録した種である。体長6~8 mm。幅広い卵形で上面はやや平圧され黒色で上半部は光沢があり、上翅は鈍く、無毛。頭楯は粗く深く点刻されシワ状。胸背側部の点刻は縦に合流し、斜にシワ状。頭胸背は特長なし。

採集記録：奮起湖(6月)

O. (s. str.) formosanus GIL. タカサゴエンマコガネ* (タイワンエンマコガネ=三輪)(= *O. yanoi* MATS.)

(脚注3)(Pl. 4 Fig. 5)

体長6~7.5 mm。黒色でつやがあり頭胸背は緑銅光沢を帯び、前頭部はわずかに高まり、後頭部には横隆起あり。前胸背は単純で上翅間室は高まる。野鳥の死骨に來集していた。

採集記録：碧湖(霧社)(4, 8月), 墾丁(6~7, 10月), 南山溪(4月), 六龜(4月), 内湾(7月), Shihmen(7月); 大埔林庄(SAUTER), 鳳山, 港口, Naifunpo, Jûgofunshô(三輪); *O. yanoi* としてChokakurai(タイプ)(6月)

O. (s. str.) dapcauensis BOU.

チビエンマコガネ(Pl. 4 Fig. 6)

体長約3.5 mm。短卵形。黒~黒褐色で上面は短毛を密生し、わずかに金属光沢を帯びる。頭楯は突出し中央が切込み、♂の前頭は隆起を欠き頭頂に角を具え、♀では前頭と頭頂に横隆起がある。前胸背前方中央には瘤状隆起を具える。前胸背の点刻は眼状。農業試験場の標本中には *O. punctatus* ILL. として屏東(三輪)の個体があるが、本種と思われる。

台湾南部の海岸のヤギ糞から採集した。

採集記録：枋山郷(5月), 綠島(7月), 台南(三輪)

O. (s. str.) tatsienluensis BAL.

シセンエンマエガネ* (Pl. 4 Fig. 7)

体長3.5~4 mm。卵形で黒褐色。光沢鈍く全面に黄色短毛を装う。頭胸背の点刻は粗く密。特長の少ない種である。

採集記録：南山溪(5, 7~8月), 霧社(5~6月), 松崗(8月), 墾丁(6月)

**O. (s. str.) armatus* BLANCH.

オオウシヅノエンマコガネ*

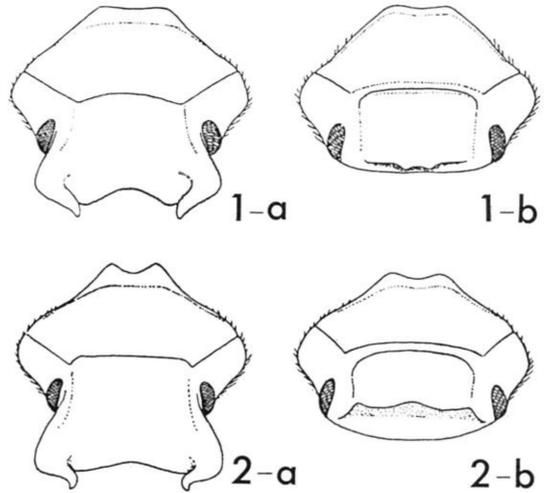


図1 *O. pseudoarmatus* BAL. a-♂ b-♀

図2 *O. armatus* BLAN. a-♂ b-♀

(BALTHASAR, 1963より)

O. (s. str.) pseudoarmatus BAL.

ニセウシヅノエンマコガネ*

(= *O. nagasawai* MATS.) (Pl. 4 Fig. 1, 1a)

両種とも7~8 mmで黒色。通常光沢あり無毛。♂には曲った1対の角を有し、その間は板状隆起あり。

従来台湾からは前者の記録があった。BALTHASAR(1963)によれば両者は酷似するが次の点で区別されるという。(図1, 図2)

***O. armatus* と *O. pseudoarmatus* の区別点**

① ♂の頭楯前縁は彎入せず前頭隆起はかるく曲る。♀の頭頂隆起は中央でのみ多少なりとも板状に高まる。後方の前頭隆起は両側から縦の隆起が走り、四角に囲まれた部分をつくる。

……*pseudoarmatus* BAL.

② ♂の頭楯は深く彎入、前頭隆起は直線的。♀の頭頂隆起は三歯状、前頭には縦隆起なし。……*armatus* BLANCH.

手元の台湾産の標本を検したところ、すべて *pseudoarmatus* であった。なお野村氏は、両者は地方的亜種関係であろうとのご意見である。

採集記録：*O. pseudoarmatus* 型：湖口(4, 10月), 墾丁(7月), *O. armatus* としての記録：綠島(7月)および安平, 台南, 台北, 南投(三輪)

O. (s. str.) roubali BAL.

ルーバルエンマコガネ*

体長7 mm。長卵形で黒色。上半部は光沢有り。上翅はサメ肌状で光沢は鈍い。上面は短毛を装う。♀は前頭および頭頂に隆起を具える。前胸背の前方中央に短い縦隆起がある。

採集記録：Shihmen(7月), 六龜(4月)

O. (s. str.) rugulosus HAR.

ハロルドエンマコガネ

(=*O. sonani* MIWA) (Pl. 4 Fig. 2, 2a)

体長10~14mm。黒色でやや光沢あり、上翅は短毛を装う。

牛糞に來集していた。

採集記録: 南山溪(4月), 霧社(4月), 奮起湖(5~6月), 陽明山(10月); *O. sonani* として, 奮起湖, Rantaizan, Sikikum(三輪)

O. (s. str.) acuticollis GIL. トガリエンマコガネ

(=*O. mařani* VŠET.)

体長約9.5mm, 銅褐色で前胸背は緑色光沢あり, 前胸背の両側と下面は赤錆色の長毛を装う。胸背は強く膨隆し前方に一突起があり, 後方には浅い縦溝が認められる。なお, 南西諸島で亜種が採れている。野村(1976)は本種を *Parascatonomus* 亜属としている。

採集記録: 蓮華池(6月), 六亀(4月), 墾丁(6, 8~9月), Shihmen(7月); 大埔林(三輪)

O. (s. str.) sobrius BAL.

ニセミツコブエンマコガネ*(Pl. 4 Fig. 8)

体長約8mm。卵形で光沢ある黒色。上半部は銅光沢あり。上翅の基部, 翅端には赤黄色の紋を装う。♂は前頭に隆起なく, 頭頂中央は小瘤を具え, 前胸背前方は落込み, 傾斜の上辺は丸みを帯び, 中央は広く窪み, 両側はやや瘤状。前胸背面の後方に毛を装う。

採集記録: 奮起湖(5, 8月)

O. (s. str.) trituber (WIED.)ミツコブエンマコガネ
(ミットゲエンマコガネ) (Pl. 4 Fig. 3, 3a)

体長5~8mm。黒色で上半部は緑銅光沢を帯びる。上翅は赤黄色で黒紋を装う。♂は前頭隆起を欠き, 頭頂には後方に少し傾いた板状突起を有しその中央はさらに指状突起となる。♀は前頭と頭頂に直線的な横隆起を具える。前胸背前方に♂♀とも瘤起を有す。色彩, 体形とも変化が多く, 松村(1938)の *O. umenoi* や *O. chokakurianus* は恐らく本種の小型(次ページ表2参照)。主に平地の人糞, 犬糞に集まる。

採集記録: 台湾本島各地(6, 8, 12月), 緑島(7月)

O. (s. str.) sauteri GIL.

ザウテルエンマコガネ (Pl. 4 Fig. 9)

体長約5mm。黒色で上半部は銅色光沢を有し, 上翅は赤黄色で黒紋を装う。♂の頭頂は三角の板状突起を具え, その上方は前方に曲った角となり, その直後の前胸背前縁部は少しえぐられる。♀では前頭隆起は細いが明らか。♂の前関節は切断状。また, ♀は一見 *O. koshunensis* に似る。

採集記録: 陽明山(5月), 南山溪(3月), 六亀(4, 8月), 墾丁(6, 10月), Sokutsu, 甲仙埔, クラル, 港口(三輪)

O. (s. str.) terminatus ESCH.

リュウトウエンマコガネ (Pl. 4 Fig. 10)

体長3.5~4.5mm。黒褐色で光沢は鈍い。上半部は弱い金属光沢を帯びる。前胸背前角部, 上翅側辺に点紋状の黄色部あり。前頭と頭頂の間が台状に高まり, 前胸背はやや眼状点刻となる。

採集記録: 緑島(7月), 蘭嶼(3, 5, 7月)

**O. (s. str.) agilis* MATS. フタホシエンマコガネ

本種は *O. nitidus* に似た種として松村により記載された。主旨は次の通り: ♀, 5mm。黒, 上翅は黒褐色, 基部に褐色紋あり。頭部前縁は強く上反するが彎入しない。上面は一様に密にこまかく点刻され首の近くに浅い窪みがあり, 両側はやや高まり, そこは点刻が少ない。前胸背は点刻が前頭のものより大きく, 前縁部の中央に小さい窪みをもち, 後縁に向って浅い縦溝状となる。前角は鋭い。上翅の間室はかなり隆まり横にねた灰色の毛を装う。Chokakurai で11月に採集されたものという。未だ何物であるか不明である。

**O. (s. str.) centricornis* (F.) マメエンマコガネ

Caccobius unicornis に似た種である。体長2.5~3

mm。黒色で上半部は銅色光沢があり上翅は黄色, 前角はより鈍くない。また, 前胸背前角下面がえぐられない点で区別できる(図3)。本記録は *C. unicornis* の誤認かもしれない。植物試験場の標本は埔里のラベルが付いている頭部の欠落した個体であった。

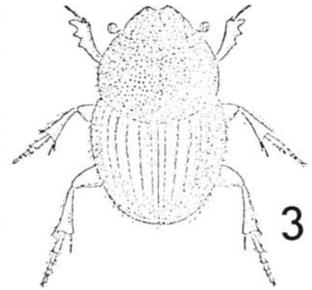


図3 *O. centricornis* (F.)
(ARROW, 1931より)

分布記録: 埔里(三輪)

**O. (s. str.) chokakurianus* MATS.

チョウカクライエンマコガネ

恐らく *O. trituber* の一型と思うが *O. umenoi* と共に原記載の要約を記す(次ページ表2)。

**O. (s. str.) dama* (F.) ルリエンマコガネ

体長8.5~11mm。暗緑~藍黒~銅色で上半部は光沢あり, ♀では前頭頸部に退化した弱い隆起と頭頂に1対の角~瘤を具え, ♀では前頭に2隆起と頭頂にも板状の瘤状隆起を有す。農業試験所で標本は見当らなかつた。

表 2 *O. umenoi* と *O. chokakurianus* の特長

	<i>O. umenoi</i> MATS., 1938 Ins. MATS. 12(2/3): p.61 (♀, <i>O. matsukoi</i> に似るがそれと比較して)	<i>O. chokakurianus</i> MATS., 1938 Ins. MATS. 12(2/3): p.56 (♀, <i>O. umenoi</i> に似るがそれと比較して)
色彩等	触角は黄赤錆色。頭部の前縁部はいくぶん赤錆色。上翅は黄色がかかる。黒色部は次の通り；基部の中央部の1紋、会合部中央のかなり大きな共通の紋、側部のより大きい紋、両先端部の非常に小さい紋。前脛節は赤褐色。	触角は暗褐色。頭部は両隆起の外側は銅色光沢を帯びる。上翅中央部に大きな黒紋があり基部から先端付近までのびる。両側縁付近は縦黒紋は上方に肩部までのびるが先端に達しない。尾節板は中央部で縦の長い黒紋がある。前脛節は上縁が黒褐色 (fuscous)、外歯は赤錆色。
頭部	頭楯部は横シロ状、前方隆起はより強く、ほとんど曲らず後方隆起は明らかで前方のものと平行、その間にはほとんど点刻なし。後方隆起の後方は小点刻を散布。	前縁はより強く反り、頭楯部はより粗く横にシロ状、前方隆起はより前縁に近い。後方隆起は幅広くゆるく後縁に傾斜する。
前胸背	前縁付近は3瘤起あり。中央縦隆起を欠く。点刻はより深く後縁付近で縦溝を具える。瘤状隆起の内側は明らかに溝状。	よりこまかくまばらに点刻され前縁に瘤起なく、各側突起の後方に浅いアバタ状の窪みがある。後縁部の中央縦溝を欠く。
上翅	よりこまかい毛を装い、縦条はより幅広い。	条刻され間室はよりこまかな点刻が2~3縦列となり、ほとんど毛を欠く。
その他	前脛節外歯はより短く、先端外歯は鈍い。 体長 5 mm	前脛節外歯は鈍く、第1歯が最も長い。 体長 4 mm
タイプ	♀, 12-II-1932, クラル(恒春), A. UMEMO leg.	♀, 28-II-1936, Chokakurai, Y. YANO leg.

分布は疑わしい。

分布記録：台南(三輪)

O. (s. str.) hastifer LANS. アカガネエンマコガネ
(= *O. putealis* MATS.) (Pl. 4 Fig. 11)

体長6~7 mm。銅~赤褐色で光沢は強くない。上面はわずかに金属光沢を帯び短毛をかなり密に装い上翅基部と翅鞘に橙色紋を有す。♂は前頭頸部に横隆起と両眼間に1角を具え、♀では強い2隆起を有す。GILLETも *O. turmaris* を書いたが本種の synonym である。

採集記録：墾丁(5, 7月), 鵝鑾鼻(5月), *O. putealis* として：Chokakurai (タイプ) (6月)

**O. (s. str.) hirsutulus* LANS. ツグロエンマコガネ
体長4 mm, 卵形, 黒褐色で光沢あり。上半部は金属光沢を帯び、肩部は黄紋を有し、かなり長い黄色毛を装う。頭部は2隆起あり。前胸背は単純。♀が Java から書かれた。試験場には溝口のラベルが付いた標本があるが、同定はあやしい。

分布記録：鳳山, Nôko (三輪)

O. (s. str.) mendicus GIL. ヒメツヤエンマコガネ

本種は SAUTER が大埔林付近で得た個体をもとに書かれた。

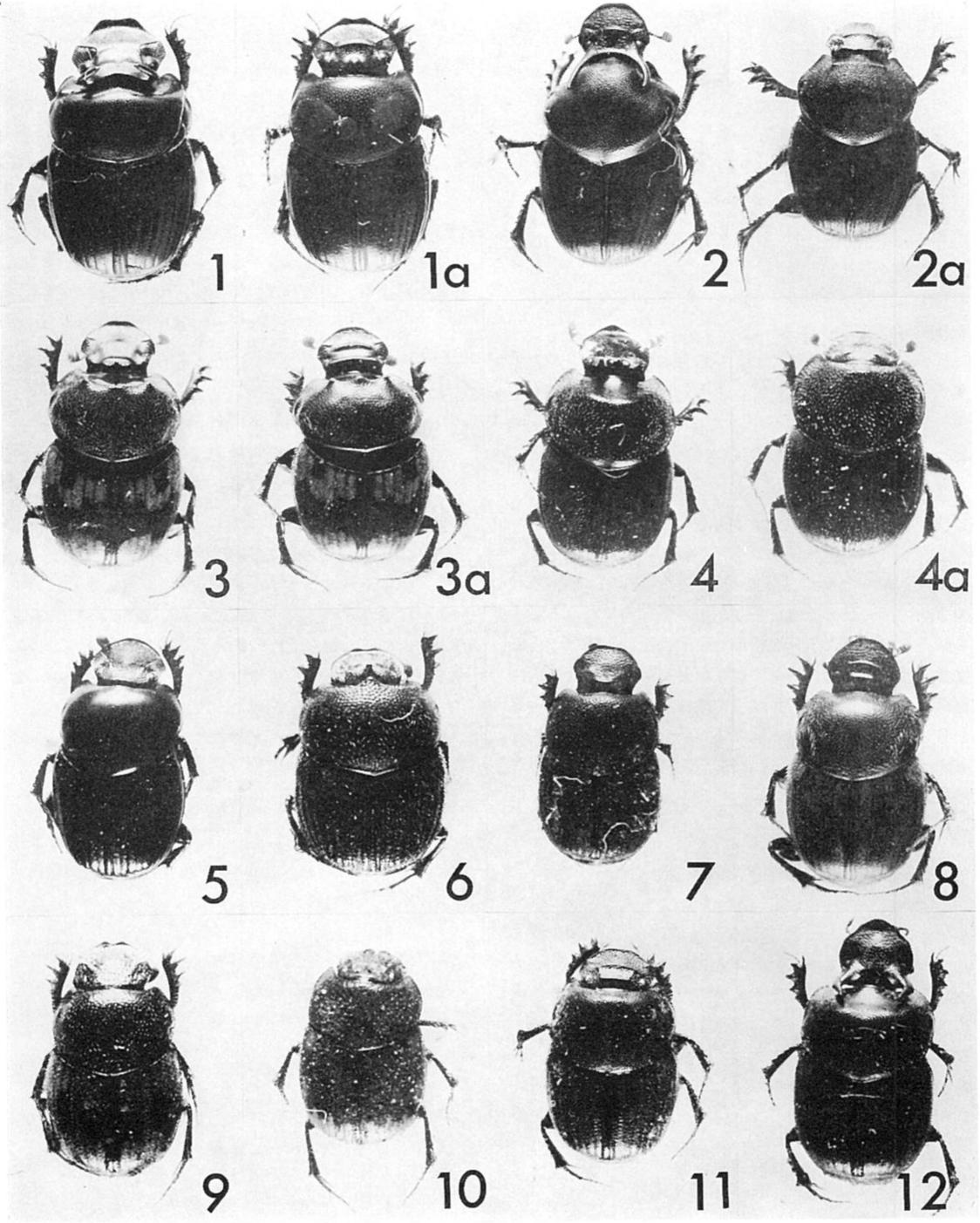
体長4~5.5 mm。長卵型。わずかに高まり、かなり光沢鈍く、暗褐色。頭部前方と肩部および翅端の紋は赤褐色(紋は消えることもある)。前胸背はしばしば弱い金属光沢を帯びる。上面は非常に短い白色の毛を装う。

♂の頭部はいくぶん放物型で♀はほぼ半円型。♂は大小の点刻があり、また、♀では一様でなくかなり密に、前方ではほとんど合流するように点刻される。前頭隆起はわずかに曲り、♂の頭頂はほぼ円錐状の上がまるまっているか、または切断状の後方にいくらか傾いた小さな板状の突起があり、♀では両端に切りつめられた単純な隆起がある。前胸背は大小の点刻を散布し、♂は前方は傾斜し、♀では弱い横の鈍瘤起を具える。前角はかなり鋭く両側は後方でやや弧状。基部中央は軽く角ばる。上翅は細く条刻され、間室は軽く膨隆しヤスリ目状点刻を具う。邦産ツヤエンマコガネの南方型に似ているが♂はツノを有す。なお、農業試験場の標本中に本種と同定された個体がある。

分布記録：大埔林, 台南

Explanation of Plate 4 (p. 29)

- | | |
|--|--|
| 1. <i>O. (s. str.) pseudoarmatus</i> BAL. ♂ 1a, 同♀ | 2. <i>O. (s. str.) rugulosus</i> HAR. ♂ 2a, 同♀ |
| 3. <i>O. (s. str.) trituber</i> (WIED.) ♂ 3a, 同♀ | 4. <i>O. (s. str.) proletarius</i> HAR. ♂ 4a, 同♀ |
| 5. <i>O. (s. str.) formosanus</i> GIL. | 6. <i>O. (s. str.) dapcauensis</i> BOU. |
| 7. <i>O. (s. str.) tatsienluensis</i> BAL. | 8. <i>O. (s. str.) sobrius</i> BAL. |
| 9. <i>O. (s. str.) sauteri</i> GIL. | 10. <i>O. (s. str.) terminatus</i> ESCH. |
| 11. <i>O. (s. str.) hastifer</i> LANS. | 12. <i>O. (s. str.) dubernardi</i> BOU. |



(H. MATSUKA Photo.)

**O. (s. str.) luridipennis* BOH.

アオムネエンマコガネ

体長5~7mm。幅

広い卵形。黄褐色で上半部は金属光沢を有し、頭部、両側と基部中央を除いた前胸背、上翅の条溝と点刻は黒色を帯るが暗色部は広がることもある。♂は頭楯が強く突き出し両眼後方に1対の角を具え前胸背は前方に瘤状

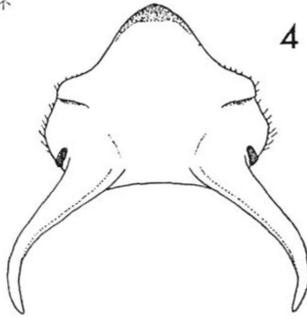


図4 *O. luridipennis* BOH.
(BALTHASAR, 1963より)

の低い2個の高まりをもつ。♀は頭部に2隆起と前胸背前方に2瘤起を有す(図4)。分布記録のもとになったと思われる埔里の地名ラベルがついた標本が農業試験場にあったが台湾産かどうか真疑のほどは不明。

分布記録: 埔里(三輪)

**O. (s. str.) orientalis* HAR.

トウヨウエンマコガネ*

体長7.5~13mm。卵形。黒色で光沢あり。前胸背はかすかに銅~緑~藍色を帯び頭楯と肢は多少なりとも赤味がある。体の大部分は短毛を密ではないが装う。♂の頭部は前頭に隆起と後頭に角を具える。その直後の前胸背前縁部は窪み、両側はやや瘤状。♀は頭部に2隆起を有し、前胸背前縁部は垂直に傾斜しその上辺は隆起を有するが中央がとぎれる。農業試験場に標本があるが台湾産であることは疑わしい。

分布記録: 恒春(三輪)

**O. (s. str.) pilularius* LANS.

マレイエンマコガネ

体長3.5~5.5mm。卵形で強く膨隆。黒色で光沢あり。上面は無毛で金属光沢を帯びる。頭部は2隆起あり。前胸背基部の両側近くにかすかな斜の窪みあり。上翅は強く条刻される。♂の前脛節端刺はかなり太短い。三輪・中条(1939)のカタログに載っている。農業試験場の標本は屏東(三輪)の個体を GILLET が同定しているラベルが付いている。

O. (s. str.) proletarius HAR.

ヨツモンエンマコガネ(Pl. 4 Fig. 4, 4a)

体長5~7mm。黒~黒褐色。頭胸背は金属光沢を有し、上翅基部と翅端に橙色の紋をもつ。♂の頭部は平坦で頭頂に1対の垂直な板状の角を具え、両角間に小瘤を有す。♀は点刻が多く前頭に低い隆起と両眼間に両端が高まった隆起をもつ。

人糞に來集していた。

採集記録: 陽明山(8月)、花蓮港(10月)、草山(=陽明山(三輪))

**O. (s. str.) umenoi* MATS.

ウメノエンマコガネ

別表(表2)の通り、*O. trituber* の1型と思われる。

**O. (s. str.) gibbulus* (PALL.)

チャバネエンマコガネ

体長8~15mm。広卵形で光沢は弱く、頭胸背は黒色。上翅は黄色で黒点紋を有す。♀は前頭頸部と頭頂に隆起を具える。前胸背は♂では頭部の角の後方が窪み、♀では前方中央に角状突起を有する。加藤(1933)の図鑑に図示されているが、分布はかなり疑問である。なお、農業試験場の標本は満州産。

**O. (s. str.) nitidus* WATERH. ツヤエンマコガネ

加藤の図鑑に台湾が分布地として挙げられている。本種の分布の可能性はなくはないが、近似のまったく別種ということもあり得る。

O. (s. str.) dubernardi BOU. <New record>

ヨウメイエンマコガネ*(Pl. 4 Fig. 12)

本種は一見 *O. (Gib.) taurinus* に似るが、前胸背前方に瘤起や窪みをもたない。体長6~7mm。♂の両眼後方から板状の牛角が突き出る。ビルマ、シッキム、北ベトナムおよび中国(雲南、四川、貴州)と南チベットから知られているが、今般台湾から新記録された。(陽明山)

**O. (s. str.) nagasawai* MATS.

ナガサワエンマコガネ

既に触れた通り、*O. pseudoarmatus* の短角型を指すものと思われる。

この他、加藤が嘉義産の *Onthophagus* を図示しているが内容は不明である。また、新種を含む数種の未同定標本があるが、それらについては後日にゆずることとしたい。

(次回へ続く)

脚注1~3) 野村は *Parascatonomus* 亜属の研究(1976)の結果、これらを *Parascatonomus* 亜属に含めるべきであると報告している。